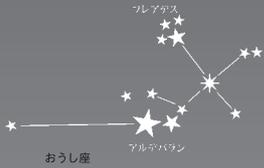


ポラリスを仰ぐ北の大地から

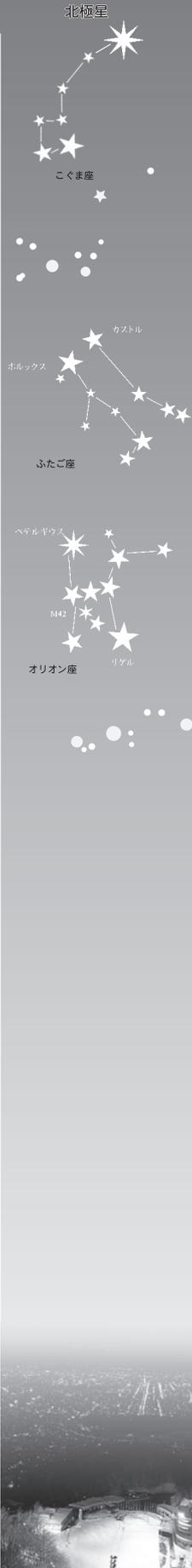


再任のご挨拶を兼ねて

深川医師会 会長 **まつもと みき 松本 三樹**

昨年の夏に北海道医報から「医師会長再任の挨拶」を依頼されましたが、当院においてCOVID-19の2回目のクラスターが発生していたため、お断り申し上げた次第です。5類移行後の本年8月にも3回目の集団感染が生じ、これで入院患者の殆どがCOVID-19に罹患したことになります。当院のような精神科単科の病院では感染者の転院は困難であり、結果的に全ての患者さんの治療を自院で担うことになりました。幸い、重症化した方は皆無であり、殆どの患者において2～4日で症状が改善されました。このような経験から感じたことは、①ワクチンに感染予防効果はない、②オミクロン株の感染力は極めて強いが、③重症化する可能性は低い、④ゾーニングの弊害(廃用症候群の発生)が大きい、などでした。なお、院内感染の発端者はいずれの場合も当院職員でしたが、こればかりは防ぎようがないというのが実情です。

閑話休題。昨年の6月に医師会長に再任されました。当医師会の定款では医師会長の任期は2期4年までと定められていますので、来年の6月まで職務を務めることとなります。コロナ禍後の当面の課題としては、医師会事業計画の再開が第一であり、道内でも少数となった准看護学院の運営に関しても対策が必要です。また、北空知圏域地域医療構想に関する理解や議論を医師会の中で深めていくことも重要です。先日(10/22)、道の意見交換会にWebで参加しましたが、道内21の圏域ごとに議論の深まりと取り組みが異なることを実感しました。当地でも本年5月と10月に様々な職種の関係者が集い長時間にわたる会議が開催されましたが、もう少し地域の実情に即した話し合いができれば良かったと考えています。今後も、深川保健所と連携しながら、当圏域の課題と取り組みについて、現実的な視点から議論を深めていきたいと考えているところです。



コロナ5類にて

富良野医師会 会長 **おさないひろあき 小山内裕昭**

5月以降、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけがインフルエンザと同じ分類の5類になって感染対策は個人の判断にゆだねられるようになりました。ただ、感染者数は全道各地で増加傾向が続いています。さらに、発熱や咳、鼻水などの風邪のような症状が子どもでも流行したこともあり、少々大変な時期もありました。コロナ禍の3年間でマスク着用や手洗いの徹底などの影響で感染を防いでいた影響があったのかもしれませんが、ただ、重症になる子どもは少なく、8月に入ってから子どもの感染症は落ち着きを見せています。

その一方で、5類になって行動制限を求められなくなったからなのか、今夏は富良野では観光客が数多く訪れるようになりました。街中のお土産屋さんでは海外から訪れている人たちもちらほら見られます。7月に開催された富良野の恒例のお祭り「北海へそ祭り」にも観光客や市民が多く参加し、昨年よりも活気があったように思います。おなかにさまざまな表情の顔の絵を描いた踊り手たちが街を練り歩く様子を見ていて、「ああ、やっとにぎやかな富良野が戻ってきているな」と感じました。

富良野医師会としても対面での会議を開催するようになりました。やはり直接会った方が近況の報告やざっくばらんな雑談ができて、横のつながりが太くなり、なにか困ったときの連携が取りやすくなるのではないかなと改めて思いました。

本来なら、それに加えて私の大好きな日本酒を飲み、語ればさらに強化につながると思うのですが、まだまだ新型コロナの感染拡大は続いており、少々自粛しています。今後、来たる飲み会に備えておいしい日本酒を用意する目的で全国津々浦々の地酒を取り寄せて自宅で飲んでいきます。それでも酒蔵で飲んだほうが格別においしいので、できればその地域の酒蔵に直接伺って味を確認したい。

感染が拡がることを防ぐことは非常に大事ですが、ずっと家に引きこもってばかりでは精神的にも健康的にもあまりよくはありません。医師として感染状況と対策には注意しつつ、どうすれば日常生活や趣味を楽しんでいけるか…、日々考えながら過ごしています。